

3年目も、やってみる人たちが活動中！
その表現に触れてみる人になりませんか？

#てみる広報室

展覧会やイベントを鑑賞・取材し、その感動を“伝えてみる”プログラム。昨年度に続き、個性豊かなメンバーが近代美術館公式noteを舞台に発信中です。その思いを感じてみてください。



近代美術館公式note



#てみる広報室 第1回講座の様子(2026年7月)

ぶんかつギャラリーvol.3

展示期間:2026年9月29日[火]ー10月4日[日]

会場:近代美術館ギャラリー(1階) 入場無料

主催:徳島県立近代美術館、徳島県立二十一世紀館



「ぶんかつギャラリーvol.2」の様子
(2026年1月)

貸出ギャラリーを分割し、公募で集まった参加者が発表し“てみる”事業の第3弾。経験、年齢は不問、応募資格は「徳島で今後も作品を発表する意思をお持ちの方」です。今回は絵画、写真、バルーンアートなど多彩なジャンルの12組が集まりました。鑑賞し“てみる”みなさんのご来場をお待ちしています。詳細は「てみるの時間」ウェブサイトをご確認ください。➡



所蔵作品紹介

淀井敏夫

〈渚〉

1987年 ブロンズ 164.0×50.0×120.0cm



美術館の屋外展示場に、腰を掛ける女性の姿があります。つばの広い帽子にミニ丈のワンピース。足を組んで遠くを見つめる彼女の姿は、とてもおしゃれで絵になります。作者の淀井敏夫(1911-2005)は兵庫県に生まれ、幼少期を過ごした後、家族で大阪へと転居しました。その後、東京美術学校(現・東京藝術大学)で彫刻を学びます。

初めは木彫部に入学しますが、次第に粘土を使った塑造に惹かれるようになり、在学中に帝展に出品した塑像作品〈男立像〉が入選するなど、早くから頭角を現しました。卒業後は国画会展、二科展、文展などに出品を重ねます。戦後は二科展を中心に活躍しました。1954年からは東京藝術大学で教鞭をとり、後進の指導にも尽力しました。

淀井の作品を概観すると、元々は重量感のある彫刻を作っていましたが、1950年代中頃から次第に空中へと長く伸ばしていく瘦身のフォルムへと作風が変化していきます。そして「人」「人と動物」「動物」などをモチーフとしたのびやかなシルエツトは、どこか軽やかで、周囲の空間へとしなやかに溶け込んでいきます。のちの作品へと続く、麻の繊維を混ぜ込んだ石膏を心棒に直接貼り付ける「石膏直付け」の技法が始まったのもこの頃でした。これにより粗い溶岩のような表面の質感が生まれます。

淀井の彫刻は屋外の風景によく似合います。淀井は、戦後、日比谷公園で開催されていた野外創作彫刻展へ連続して

出品するなど、野外における彫刻と人との関わりを探ろうと、早くから創作を展開していきました。後年には、公共空間への彫刻設置(パブリックアート)にも取り組み、現在も数多くの作品が屋外に展示されています。それらの作品は、私たちの日常に潤いを与え、生活と美術を結びつける大きな役割を果たしています。彼の記念館として運営されている兵庫県朝来市のあさご芸術の森美術館にも、広大な自然の中に多くの屋外作品が展示されています。

本作〈渚〉は、そんな淀井の造形センスが存分に発揮された作品です。足を組んだ隙間に生まれる空間や、彼女がかぶる帽子にあいた穴に目を向けてみてください。それは、通り抜ける外気を感じさせ、降り注ぐ木漏れ日を作品の中へと取り込むためのものと言えるかもしれません。常に周囲の空間との関わりを求めた淀井。屋外展示場に本物の海はありませんが、彼女の見つめる先には、きらめく波や心地よい潮風が確かに存在しているように感じられるのではないのでしょうか。

(主任学芸員 久米千裕)

照明工事のため
2階美術館エリア
休室

期間:2026年10月1日ー
2027年4月上旬まで

※1階ギャラリーは利用できます。



壁面ケース内照明の選定作業の様子

休室中でも活動中
作品との未来のための200日

もっと美しい光の中で作品と出会えるよう、照明設備を改修します。

工事の間は、館外へと活動の場を広げ、多彩なプログラムを展開予定。

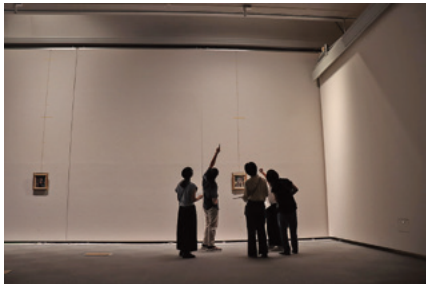
作品との対面が待ち遠しくなるような、特別な体験をお届けします。

照明工事のため 2階美術館エリア休室

期間:2026年10月1日ー2027年4月上旬まで

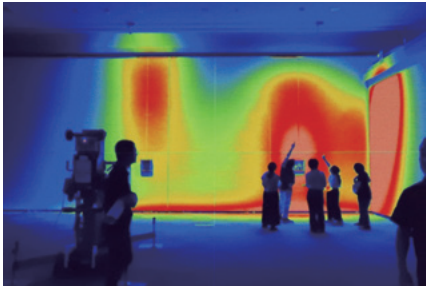
※1階ギャラリーは利用できます。

このたび当館では、展示室およびロビーの照明設備を全面的にLED化する改修工事を実施いたします。それに伴い、2026年10月1日から2027年4月上旬まで、「2階美術館エリア」はお休みとなります。しばらくの間、2階での展示をご覧いただくことはできませんが、次にお会いするときには、作品たちにとっても、皆様にとっても、これまで以上に心地よい空間へと生まれ変わった姿をお披露目いたします。



照明工事にに向けた照明器具の選定作業の様子

美術館の展示室に入ったとき、少し薄暗いなと感じたことはないでしょうか。実は、照明や太陽の光に含まれる紫外線や熱は、絵の具や紙、布などを劣化させる大きな原因になります。窓辺に置いたままの新聞紙や本が、いつの間にか色褪せてしまった経験はどなたにもあるかと思います。美術館の作品も同じようにデリケートです。そのため当館では、大切な作品を光のダメージから守り、未来へ残していくために、あえて照明を暗く設定しているのです。しかし近年話題になっている通り、水銀に関する国際条約により一般照明用の蛍光灯が2027年末までに製造・輸出入できなくなります。そこで当館では、この機会を活かして最新の照明技術を導入し、作品の保護と皆様の鑑賞環境をさらに向上させるための全面改修を実施いたします。



照明工事にに向けた器具選定（輝度分布の可視化）



天井裏

新しく導入するLED照明は、自然光の下で見えるような非常に優れた色の再現性を備えています。これにより、画家が筆を重ねた跡や、細かく描き込まれた線の一つひとつが、より鮮明にご覧いただけるようになります。また、展示作品の大きさや材質に合わせて、照明一つひとつの明るさや光の色合い、照射範囲を個別に調整できるシステムを採用します。作品ごとに最適な光を設えることで、作品本来の魅力をより豊かに感じていただける展示空間を実現します。そして何より、新しいLED照明は色褪せ等の劣化要因となる紫外線や熱をもたらす赤外線をほとんど出しません。作品にやさしい光で、大切なコレクションを美しいまま未来へ受け継いでいくことができます。



壁面ケース計測

2階の展示室はしばらくお休みしますが、工事の間は、館外へと活動の場を広げ、多彩なプログラムを展開予定です。リニューアル後の作品との出会いが待ち遠しくなるような、特別な体験をお届けしますので、休室中もぜひ様々なプログラムにご参加ください。詳しいスケジュールは、ウェブサイトやSNS等にて随時お知らせしてまいります。新しく生まれ変わる展示空間と、休室中ならではの特別な体験の両方を、どうぞ楽しみにお待ちください！

（主任学芸員 飯田恵実）

ユニバーサル美術館 WEEK

アートの楽しみ大図鑑

2026年12月12日[土]ー27日[日]

会場:近代美術館ギャラリー（1階） 入場無料

照明工事のため半年間休室中の近代美術館が、1階フロアで「出店」を開きます。2011年から15年間、積み重ねてきたユニバーサルミュージアムの活動を通して発見した、絵を見る楽しみ方を一挙公開しようという企画です。触るコーナー、お絵描きコーナー、絵のない鑑賞空間など、色々なブースに自由に立ち寄れるフリマミたいな展覧会。目も耳も手も、リラックスした心と体もいっぱい使って、思い思いの鑑賞のひと時を過ごしていただけたと思います。展示の計画を一足はやくご紹介しましょう。

絵をみる楽しみ図鑑（予定）

あ 「案内ツアーはオーダーメイド」
普通の展示解説と違って、来場した人に合わせておすすめポイントをご案内してみたいと思います。

い 「イスを選んで好きな場所で」
お気に入りのイスでひとりゆっくり絵を見ていると、とても静かに落ち着いた気持ちになりますよ。

お 「お絵描きコーナー」
くつをぬいでリラックスして塗り絵や感想を書いて過ごしましょう。小さなお子様にも人気。

こ 「子連れdeアートタイム 毎日10時集合」
小さな人が泣いても笑っても大丈夫。ワイワイ楽しく過ごしてください。うるさくても大目にみてくださいね。

し 「触図でおしゃべり」
絵の輪郭や構図を手でなぞって確認するツール。見えない人と見える人が対話しながら絵の鑑賞をするとき、手助けになります。どの線をひろって触図にするかが実は悩みどころ。つくる時から鑑賞は始まっています。

し 「手話ビデオで解説」
美術館の解説は、書き文字と声の案内がほとんど。手話で話す人にすっと

届きやすい形で解説ビデオをつくって見たら、という試み。手話通訳さんと二人三脚で何をどう伝えるか、考えながら撮影しました。

て 「手でみる彫刻鑑賞」
手の感覚を使って、目や言葉だけに頼らず作品を鑑賞してみます。見るだけではわからなかったことに気づいたり、触るだけではわからないことに気づいたり、発見があると思います。

で 「デジタルの目でクローズアップ」
デジタルアーカイブを活用して、絵を拡大して観察してみましょう。歩くのが不自由でも、目が見えにくくても、好きな目線で鑑賞できます。ご自宅からどうぞ。

ひ 「筆談deアート鑑賞」
聞こえない・聞こえるの垣根なく一緒に絵をみて意見を交流してみたい、そんな願いから生まれたプログラム。ゆっくり話せる。見返すことができる。後から参戦できる。いろんなコミュニケーションが生まれます。

もっともっとたくさんのアイデアで、アートの楽しみを身近に!そんな気持ちで出店(展)しますのでご期待ください。イベントの予定は決まり次第、ホームページでご案内します。

<https://art.bunmori.tokushima.jp/zukan/>



「子連れdeアートWEEK 0歳からのワイワイびじゅっかん」展会場の様子(2026年3月)

Universal Museum Week The Ultimate Guide to Enjoying Art

徳島県立近代美術館ニュース

第139号2026年9月12日発行(10月号)

発行: 徳島県立近代美術館

770-8070 徳島市八万町向寺山 文化の森総合公園

TEL:088-668-1088 FAX:088-668-7198

美術館や展覧会についての情報は
当館ホームページをご覧ください。

<https://art.bunmori.tokushima.jp/>

